



春友町「大沢の滝」

水の思い出

～ 9 ～

私が生まれ育った家の井戸は高台にもかかわらず不思議なほど潤れることのないおいしい水が自慢の井戸でした。深く掘られた井戸に好物の西瓜が吊るされ、なんとも言えぬ冷たさに舌鼓をうったのも懐かしく思い出されます。

父が連れ歩いてくれたということもあって、幼い頃から山歩きが好きになった私は、よく山菜やきのこ取りなどに出かけ、湧き水を見つけては、見るからに冷たくおいしそうな水を、手や大きな葉っぱですくい上げ喉も心も潤したものでした。そこには山の手入れに精を出す人達の姿があったことを思い出します。

山々に、植林が行届き、保水性が高まった森林から水が大量に流れ出る湾で育った「かき」貝は類を見ないうまさになるといいます。それが実証されて以来ある地域ではかき養殖の人達が植林に精を出しているとのこと。

生態系の保存からみても、いかに水が大切なものであるかわかっています。水も一人ひとりが意識して守らなければならないものの一つであることをしみじみと感ずるのです。

(西三町 菊池 泰子)

手前味噌をつくる

市内内堀町のヨネビシ醤油さんで、味噌の手造り教室がひらかれています。保存料などを一切使わない安全・安心な味噌を自分の手でつくれます。

こだわりの材料を使って「つくる喜び・自分でつくった食材を味わう喜び」をおいしい味噌と一緒に味わってみませんか。

手前味噌ってどんな意味？

とにかく人より自分の方が少しでも優れてると思ったがるのが人の常ですね。

昔は農家でも武家屋敷でも味噌を自家醸造していました。それぞれに先祖伝来の製造方法があり、どの家でも我が家が一番と思っていたことでしょう。自分の家で作った味噌なら、たとえ塩からくても、子どもの頃からなじんだ味でおいしいと感じることから、自分のやったことなら、何でも良いと思うことをいいます。自分の都合のよい様に解釈すること。

こだわりの材料は？

大豆は国産高級品「宮城シロメ」を使用、遺伝子組換え大豆は使っていません。将来的には茨城県産の新品種ハタユタカの利用を検討中です。

コシヒカリに代表されるもちっとした食感の米は、味噌づくりの麴にはむいていません。

味噌にはご飯として食べる米とは違い、粘り気のないものが適しているため、日本酒にも用いられる「日本晴」を使っています。

塩は長崎県産の「磯塩」を使用。ミネラルを多く含んだ自然塩です。



ものを売るだけでなく、出会う場所を提供。「口伝の技術」

味噌の豆知識

大豆と麴の比率

市 販 品	大豆:麴=10:5
ヨ ネ ビ シ	大豆:麴=10:11
京都白味噌	大豆:麴=10:30

麴の率が高くなると甘味のある味噌になりますが、色の変化が進みやすくなります。

塩 分

ヨネビシ	11%
市 販 品	12%~13%
仙台味噌	13%
田舎味噌	14%~15%

塩分が10%以下になると、すっぱくなり、13%を越えると味噌の味がでるのに数年かかってしまいます。



ヨネビシ醤油・高和さん

1 麴こうじを入れて、よくほぐす

白い小さな花が咲いたような麴が折敷に広がっています。その半分をボールに入れてよくほぐします。麴にふれた瞬間から、麴独特の懐かしい香りが広がってきます。最後の一粒まで、もったいない…

2 塩と水を混ぜる

ほぐした麴に、塩を加えてよく混ぜ、さらにミネラルウォーターをいれて混ぜます。混ぜる手に冷たさがしみてきます。手造りの大変さを体感することも、「もの」への感謝の気持ちを育てる大切なプロセス…でもつめた〜い！

3 蒸した大豆を混ぜる

大豆はゆでるとうまみが煮汁の中に出てしまうため、ヨネビシさんでは高圧をかけて大豆を蒸し、うまみの豆の中に閉じ込めます。大豆をつぶすのは一苦労、今回はやわらかくすりつぶしたものを用意していただきました。『モンブランみたい』な大豆はほんのりと温か。

ではなく地域の中で人と人が
共したいと考えています。
職人芸には自信があります。

大豆はゆでずに蒸すのが
おいしい味噌のコツです



味噌造り指導・黒羽さん



お問い合わせ ヨネビシ醤油 0120-141-123
費 用 12kg入樽1本 6200円
(タル込・消費税別途)
(ご希望により保管管理有・700円)
開催期間 1月～4月、9月～10月
所要時間 約2時間
申込方法 10日前までに電話予約
*できるだけ6本単位でのお申込をお願いします。



4 オケに詰め込む

よく混ぜた材料を手のひら大の大きさのボールにし、オケにつめます。間に空気が入らないよう、上からたたきつけるようにして材料のボールをオケに投げ込みます。「ストレス解消にいいですよ」は講師の先生のお言葉。



5 塩を振り、回りも消毒

きれいにつめ終わったら平らにならし、表面に塩を振ります。塩で空気と遮断し、雑菌を寄せつけないためです。オケの回りもよくふき取り、さらにアルコールで消毒します。中身が暖かいうちは紙で覆い、冷めたらふたをします。

「お元気さん」発見!

白羽町 岡部 定雄さん

寒風の中、「第12回常陸太田市民歩け歩け大会」で岡部定雄さんにお会いしました。岡部定雄さんは、270名の参加者の中では最年長の86歳で、10キロの距離を完歩した足の丈夫な「お元気さん」です。

今回のコースは、西小沢小学校スタートです。手がかじかむ寒い朝でしたが、ストレッチをして5キロと10キロのコースに分かれて出発しました。岡部さんが参加した10キロコースは、9時スタートです。広々とした田んぼを抜け、久慈川の澄んだ流れを見ながら土手を歩き、途中休憩を取り、真弓山を遠くに望みながら2時間30分ほど歩いて西小沢小学校に11時30分に全員ゴールしました。

岡部定雄さんは、平成3年に始まったこの大会に12年間連続して参加されているそうでほんとに「お元気さん」ですね。参加の動機は、「歩けるうちは歩こう」だそうです。

今でも、用事があるときは、白羽から太田まで自転車で行き来し「健康は、足から」を実践されている岡部さんにまた次回の歩け歩け大会でお会いしたいですね。(S. Y)



くじら焼きの店（東通り旧サンローラン）

『くじら屋』
3/7オープン!!

メンバーから差し入れのかんそう芋を食べながら、フォonzの会議を開いていると、鯨ヶ丘商店会による「くじら焼き」の店がオープンするという情報が…。

太田の街からあの甘い香りが消えてどれくらいたつことか。さっそく取材に行ってきました。

商店会事務局の渡辺さんによると、空店舗対策に何か事業を始めたい商店会と、特産品開発事業から生まれた「くじら焼き」を有効活用したい商工会の考えが一致して、商店会が商工会から機材を借り受ける形で始めるそうです。そして、「くじら焼きの店は、単に物の売り買いの場だけではなく、地域のコミュニティの場としても育てていきたい。」と話しておられました。

きっと次回のフォonzの会議には、誰かからの差し入れが…。今からオープンが楽しみです。

・くじら焼き【kujira-yaki】 くじらの形をしたおやき。基本的に中身はあんこの場合が多い。

- 営業日時 月曜日～金曜日（土・日は休み）
PM1:00～PM4:00
- 場所 常陽銀行太田支店となり（旧サンローラン）
- 価格 100円
*3/4・5・6はプレオープンとして1個50円でPR販売するそうです。

- 問い合わせ 鯨ヶ丘商店会事務局
0294-72-0569(喜久屋)



学び舎から おじいさん・おばあさんと 河内小 昔遊びを楽しむ

1月24日、1・2年生は「おじいさん・おばあさんと昔遊びを楽しもう会」を実施しました。

体育館いっぱい遊びのコーナーがつくられ、それぞれのコーナーでは、おじいさん・おばあさんに昔遊びを教わりながら、子供たちは夢中になって遊んでいました。

お手玉・はねつき・まりつき・こま回し・竹馬など、おじいさん・おばあさんが昔遊びの得意技を披露してくれると、子供たちは大喜びでした。

元気いっぱい楽しく遊んだ後は、給食と一緒に食べながら、地域の方との交流をさらに深めることができました。



私の宝物・捨てられないもの 「ウナギ用の生け簀」



私の家の前には用水路があります。今は農業用として、農繁期のみ水が流れていて冬場は枯れています。

私の小学生の

頃は、今の長谷川が流れ込んでいて水量もあり、家庭用水はもとより、水泳ぎや魚捕りができる程でした。

小学生の頃、夏休みの楽しみは、この川でのウナギ捕りが一番でした。うつぼ掛けが主でしたが、そう捕れる物ではありません。一・二匹では足りないのので「生け簀」に入れて、川に浮かべて置きます。家族で食べられる量になるまで生かして置くためです。

この「ウナギ用の生け簀」がいまだに捨てられずにあるのです。使われなくなって45年以上が経つと思いますが、使用可能の状態です。周りの環境が良くなり、ウナギ捕りができる日がきっと来ると期待してなかなか捨てられません。今しばらくは、物置に眠っていると思われます。

(中村 龍一郎)

子育て奮闘記

踊るママパラダイス ⑩

毎年この季節になると別れと出会いを意識します。春が来ると言うことは私にとって変化の象徴です。子どもの成長とともにそこに留まれないもどかしさと、新たな一歩への期待が入り交じり落ち着かない気分です。

成長が遅めのコースケはそれなりの苦勞もありますが、それでも余りある宝物をくれます。一出会いへの感謝。

一度は挫折したこともありましたが、悩みをうち明けると、「こっちの気分が暗くなるから。」と言われ、もう友達はいらないと思ったこともあります。当たり障りのない付き合いを通したこともあります。でも、身動きがとれなくなった時、救ってくれたのは「もつとオープンになっていいんじゃない。」と言ってくれた人達です。一人で抱え込んでいないで自分から言葉を発しなければどうしてあげたらいいか周りも分からないのだと。その時から私はそう言う存在のあることに感謝しました。感謝する気持ちをもてることが自分を楽にするということを知りました。先生や友達、私の子ども達の友達、その全ての出会いに感謝したい。そして、子ども達が最初に出会ったのは私です。この出会いが子ども達にとってラッキーなモノであつたらいいと思います。

春が来ます。卒園、卒業、進級など、変化の多い時期。皆さんの元にもいい出会いがあるといいですね。

—— 常陸太田子どもの劇場 織田 裕子

コースケの卒園式



お手軽ハイキング ～その3～

断崖の下に広がる集落には 春の気配が感じられます

常陸太田市の市街地から国道349号線を北上し、町屋宿を左手に見、その奥(西)に見える断崖が「黒磯バッケ」。市内にはバッケと呼ばれる所が数カ所ありますが、このバッケは規模・景観とも市内一。今回は、この「黒磯バッケ」と「町屋宿」を散策するコースです。

「黒磯バッケ」の下に広がる集落が「黒磯集落」。多くの人は町屋宿を通ったことがあるとは思いますが、里川を渡り、この黒磯集落まで足を運んだことがある方はそうは多くないはず。

この黒磯集落は、和田姓を名乗る家が大部分。この和田家では、お月見の際ススキを飾らないと遠い昔に聞かされたことがあります。これは遠い昔、和田氏の先祖が戦いに敗れ、ススキの中に見を潜めて敵の追手より逃れたという言い伝えによるものだそうです。(と記憶しているのですが……)

今回のコースは、バッケの尾根筋を歩く1時間半のコースです。コース右側の崖にはくれぐれも注意のうえ、眼下に広がる町屋宿と里川の流れ、さらには遠くに望む高鈴山の眺望をお楽しみください。

(このコースは、平成13年3月2日付読売新聞に「里山トレイルクラブ」の紹介記事として掲載されています。ご参照ください。)



春友彫刻の森 — (旧棚倉街道) — バッケ入口 — (杉林の中の小道) —
【P・WC、水場あり】 5分 標識小さい。注意！ 息が切れる

春友への分岐点 — 尾根筋 — 十国峠への分岐点 — 七曲り — 黒磯集落
20分 休憩！遠景を楽しもう 45分 落ち葉で 55分 60分
滑るかも

— 黒磯橋 — 町屋宿 — 町屋橋 — (旧棚倉街道) — 春友彫刻の森
昔来た宿場 70分 何となく風情 90分
町、面影をさがそう のある橋

(※時間は所要時間の目安です)

石ッコロで遊んでみませんか？

石ッコロと楽しい出会い

河原に転がっている、何の変哲もない石ッコロには不思議な魅力があります。石ッコロを手の平に乗せ見つめていると、様々な模様が浮かんできます。一つの石ッコロでも角度を変えて見直すと、また別の影が写って見えてきます。それぞれの石ッコロには、他に無い魂(霊)が宿しているとも云われ、願をかけた文字など書き入れ身体の上に置いておくと、その願いが叶うと昔の人達は信じていたようです。その名残が今でも路端のお地蔵様の近くに転がっている石ッコロを供える風習が残っています。またお子さんと一緒に動植物などペインティングして遊ぶのも楽しいものです。それが後になって大切な宝物になること受合いです。



さざれ石



次回風影石(盆石)について 石塚 弘

燃える炎に願いをこめて 楽しかったお正月の伝統行事

今ではすっかり見られなくなってしまったウラ正月の伝統行事「鳥追い(ワーホイ)」が、1月12日茅根町の国道349号沿いで行なわれ、町内の子供やその父母が楽しいひと時を過ごしました。懐かしさに誘われ、ぶらりと取材してきました。



茅根町で行なわれている「鳥追い」は数年前から復活し「鳥追い行事実行委員会」が中心になり、地域をあげて取り組んでいる行事です。

当日の午前中、子供達は近くの旧佐都公民館で餅をつき、紅白の餅を小枝につけ、マユダマ作りに挑戦しました。このマユダマは昔から農家で作られ、結実が約束される花になぞらえたもので、作物や穀物がたくさん実るようという願いをこめたものです。マユダマ作りは初めてというお父さんお母さんもあり、親子のふれあいを体験する貴重な時間となりました。

午後5時、まわりが少し暗くなってきた頃、国道349号線の近くの田んぼの中の鳥追い小屋に子供達が集合。柴田実行委員長、梶山子供会育成会長より、「貴重な伝統行事を楽しんでください」「なぜこんな行事が行われるようになったのか、おじいちゃんおばあちゃんに聞いて欲しい」とあいさつがありました。その後子供達は三棟の鳥追い小屋にわかれ、いろりで餅やコンニャクの田楽を楽しみました。子供達の中には、餅を食べ過ぎて苦しいという者もあり、素朴ながら普段は食べられない味を堪能した様子。



午後6時30分。すっかり暗くなったところで順番に鳥追い小屋に火を放ち、子供達の書いた書き初めやしめ縄と一緒に燃やし、一年間の無病息災と五穀豊穡をみんなで祈りました。燃えさかる炎の中で、「楽しかったね!」と親子で交わす言葉がとても印象的でした。

茅根町の鳥追い行事実行委員会の皆様、大変お疲れ様でした。また来年も企画してください。(トン汁とってもおいしかったです。ごちそうさまでした。)

【MS記】

石ッコロで遊んでみませんか？

ハイビジョンシリーズ

小椋佳子どもミュージカル
「ロボ! 笑ったね」



3/16

(土) 14:00~

観覧申込受付中

リバイバルシリーズ

「学校」



3/23

(土) 14:00~

観覧申込受付中

リレー
エッセイ

「思い出の絵本」～10～

(寿町 若松 友子)

「あっ、ケガしちゃった、どうしよう！」 2つの布団のまん中に寝ころび、合図のように読み上げると、こどもたちは大急ぎで布団にもぐり込み、ちいさな頬を私の頬にすりよせるように両側にびったりついてきます。

なにに？はやく読んでみて！というように、4つの瞳をキラキラさせて待つ表情がなんとイキイキしていること！

どんな名作もかなわないわが家の人気No.1絵本「きゅうきゅうばこ」は、こどもがおこししやすいケガに対する応急処置法を、ユーモアたっぷりの絵とお話でわかりやすく印象づけてくれるすばらしい科学絵本です。

“ゆびをドアにはさんじゃった”というページの、“これはいたい！おもいきり泣いていい”というところでは、おおげさに「ウェーん」と真似して大喜び。はなちのページでは、ティッシュを鼻に詰めたような発音の上手な演技に得意顔のこどもたち。楽しくて愉快で大はしゃぎ。やっと眠ったその顔までが笑っているようでした。

小学生になり、救急箱を自分で使えるようになった今でも本棚に並んでいるもうひとつの「きゅうきゅうばこ」を愛し続けているようです。
(次回は馬場町の塩原慶子さん)

かがくのとも版
きゅうきゅうばこ



ほつ
とひといき

ホトケノザ (シソ科)



早春、土手や畑の片すみの陽だまりに、群がってポツと赤むらさき色の花が咲いているのを見かけます。すらりと伸びた唇形の花が2つ3つ開きます。かわいい花、純真そのもの。

茎を抱いて対生した半円形の葉が、いかにも仏様の座ぶとんにそっくりということで、仏の座と呼ばれたのです。別名サンガイグサ(三階草)は葉が数段になるためです。他にカザグルマ、カジバサ、ミコシグサなどの名があります。

本種は食用にならず、春の七草に含まれるのは、ホトケノザの古名をもつキク科のコオニタビラコ(黄色い花)のことです。混同します。

仏縁の ある草やこれ 仏の座(名和三幹竹 作)
(文 桐原 弘)



ちよっとひといき 固さしつかり!の 豆腐と油揚げ

大竹商店 町屋町 1304
TEL 78-0039

皆さんは、豆腐の固さはどれぐらいがお好みでしょうか？町屋郵便局近くに、知る人ぞ知る「割り箸で刺してそのまま持ちあがる」しっかりとした固さの豆腐の店、大竹商店があります。大豆の風味そのままの豆腐は、湯どうふに冷奴に、遠くからのファンも多いとか。また、ここの油揚げはいつも手に入るわけでない為、揚げはじめると良い香りが漂い地元の人たちが買い求めに集まってきます。おすすめは揚げたてを火で軽くあぶり、しょうが醤油でいただくのが最高！材料も油も昔ながらの作り方をしているそうです。宿場町のなごりを残す町屋、お店を守る老夫婦が、物のやりとりだけではなく笑顔で迎えてくれます。ハイキングの帰り道、ちょっと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(P.6 ハイキング地図参照)

富士山を見た！撮った！

太田ブロック(常陸太田・金砂郷・水府・里美)のビューポイント探しています。

昔から縁起の良い初夢の代表は、何といても『一富士、二鷹、三茄子』。あなたは今年どんな初夢を見ましたか？フォonzでは、今秋発行の記事とするため、太田ブロック(常陸太田市・金砂郷町・水府村・里美村)から「富士山を見た！」という富士山ビューポイントを探しています。

最近の情報でなくても結構です。情報をお持ちの方、必ず地図を添えて、FAXまたは郵便でご連絡ください。(写真をお持ちの方、写真をお貸しください。)情報お待ちしております。

〈連絡先〉

〒313-0061 常陸太田市中城町3280
常陸太田生涯学習センター内
常陸太田フォonzネットワーク・富士山係
FAX 0294-72-8880



水府村武生から望む富士山(平成14年1月6日)